

やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

2001年7月26日夕

行者還宿跡から一のタワ間の道

二〇〇一年攝影、筆者提供

年7月に南都菩提山宝蔵院に率いられた講中50人の人々が寄進したものと分かる。

自然感じ心は高揚

でも書くはない。普段より粗食で歩いているので、身体の疲労は激しいのに、こうした目と耳と身体で周囲の自然を感じ取りながら歩いていると、気持ちは高揚したままだ。「ウオーキングハイ」でも言えはいいのか、山の中を歩き続けることで、この不思議なハイな状態を初めて経験した。高山の道を歩き��ることから生まれるこの心の高揚が、山伏の苦しい修行の奥にあるのではないかと想像した。弥

9時すぎに大普賢岳

